

## ヨハネの手紙第一5章4-5節 「世の力に勝つ信仰」

### 1A 迫り来る闇の力

1B 引き渡される前のみことば

2B 反キリストの現れの前の教会

### 2A 神から生まれた者

1B 御霊による誕生

2B 神の種

### 3A 世に対する勝利

1B 悪い者の支配

2B 初めから罪を犯す者

3B 悪魔のわざを打ち破る御子

### 4A 私たちの信仰

1B 信仰による救い

2B 御子なるイエス

1C 国々の服従

2C 長子

## 本文

ヨハネ第一5章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、先週で4章を読み終わりました。今日、午後礼拝で5章全体を見ていきますが、今朝は4-5節に注目します。「<sup>4</sup>神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。<sup>5</sup>世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」

教会の週報、ロゴス東京通信には、この一年間のテーマともなるみことばを掲げています。「あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。(エペソ 5:8)」このみことばが示されたのは、今の時代、闇の力が強くなっているかを感じ取っているからです。しかし、私たちは闇だったけれども、今は、主にあって光となっています。それで、光の子どもとして歩もうではないか、ということです。今朝は、いかの闇の力が迫り来ようとも、私たちはすでに、世に打ち勝っているということを学びたいと思います。

### 1A 迫り来る闇の力

1B 引き渡される前のみことば

ヨハネがここで、「世に打ち勝った」と言っている言葉ですが、イエス様が語られたみことばがあります。「ヨハネ 16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安

を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」すでに世に勝ちましたと言われています。これを語られたのは、ご自身が捕まえられる直前のことです。イエス様は、捕えられる時に、「ルカ 22:53b しかし、今はあなたがたの時、暗闇の力です。」と言われたのです。闇の力が覆っているのですが、それでも、すでにご自身は世に打ち勝ったと言われます。

## 2B 反キリストの現れの前の教会

同じように、主イエスは、アジアにある七つの教会に、勝利する約束をくださいました。エペソにある教会には、「黙 2:7 勝利を得る者には、わたしはいのちの木から食べることを許す。それは神のパラダイスにある。」と言われました。スミルナの教会には、「2:11 勝利を得る者は、決して第二の死によって害を受けることはない。」と言われました。ペルガモンの教会には、「2:17 勝利を得る者には、わたしは隠されているマナを与える。」と言われました。ティアティラには、「2:26 勝利を得る者、最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与える。」です。サルディイスには、「3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。」と言われました。フィラデルフィアには、「3:12 わたしは、勝利を得る者を、わたしの神の神殿の柱とする。」と言われます。ラオディキアにも、3:21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせる。」と言われています。

これらの勝利宣言を、天から降る災い、患難を前にして行っておられるのです。6章から、七つの封印が解かれて、地上に災いがくだりますが、その前に2章と3章で、すでに勝利する約束を下さっていたのです。主は私たちに、これから闇が深くなるけれども、その勝利は確実に、あなたに与えられていると約束してくださっています。

## 2A 神から生まれた者

この本文では、「**神から生まれた者はみな、世に勝つからです。**」とヨハネが言っています。神から生まれていることが、世に勝つことに直接、つながっているということです。

### 1B 御霊による誕生

神から生まれることについてですが、ヨハネは福音書で証言していました。「ヨハ 1:12-13 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」イエスの名を信じるということで、神によって生まれます。ここで大事なのは、「生まれる」ということです。人の意志や、肉の望むことによってそれができるでしょうか？できませんね。私たちが母の胎内にいる時に、何か自分が自分の誕生に何か貢献できることはあるでしょうか？ないですね。ここが、神から生まれるというところにある意味です。私たちの肉の努力によって、何かできるものではないということです。

主は、イスラエルの民に、歴史においてその壮絶な葛藤を通らせました。バビロンによって、彼らの罪を裁かれました。七十年の捕囚期間が満ちれば、主は一方的に憐れみ、彼らをバビロンから贖い出してくださいます。それに基づいて、彼らがたとえどんなに汚れてようと、以前のように、背信の罪を犯すことなく、主の命じられていることを行うようにできるようにされます。それが、御霊による一心なのです。「エゼ 36:26-27 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。」主は、ご自分の霊によって、私たちから石の心を取り除き、肉の心にしていただきます。新しい霊をくださいます。それで、神の掟に従って歩むことができるようにしていただきます。

この約束に基づいて、イエス様は、ニコデモに語られたのです。「ヨハネ 3:3 まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」「3:5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」御霊によって生まれました。

## 2B 神の種

そして、これがちょうど、子どもが生まれる時に、父の精子があって生まれるのと同じように、神ご自身の種によって生まれたのだということを、ヨハネは第一の手紙で話しています。「3:9 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。」神には、罪がありません。ですから、神の種が与えられた者たちも、罪を犯さないということです。

これが、神が生まれた者が、なぜ世に勝っているかの理由です。神の種が与えられていて、神が罪を犯さないように、自分も罪を犯さない、だから世に対して勝っています。ここで、罪を犯さないというのは、以前学んだように、罪を犯したままでいることができないという意味ですね。罪を犯すことが、自分の本来の姿ではないということです。

## 3A 世に対する勝利

### 1B 悪い者の支配

世というものは何か？それは、神に反抗する世界と言えばよいでしょう。なぜ、神に反抗しているかと言えば、5章 19節にこう書かれているとおりです。「私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。」悪魔の支配下に入っているのです。

世界は、神が造られました。ですから、世界は神の栄光を現しています。しかし、アダムが罪を犯してから、悪魔にその支配権を譲ってしまいました。そのために、本来の神の栄光は映し出されていないのです。それは、あたかも傷ついた鏡のようでしょう。神の栄光を現しているのですが、あ

るところが傷がついていて、その部分は見えなくなっている、あるいは歪んでしまっています。

## 2B 初めから罪を犯す者

悪魔の最も大きな特徴は、罪を犯していることです。「3:8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。」初めから罪を犯しているとは、彼の本質が、彼のすべてが、罪を犯しているということです。神の言われることに背いているということです。罪を犯さないでいることは、決してありません。だから、罪を犯している人は、悪魔の支配の中で犯しています。エペソ 2 章には、こう書いてあります。「2:1-2 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。」罪の中で死んでいて、この世の流れに従い、そして、空中に権威を持つ支配者の言いなりになっていました。

## 3B 悪魔のわざを打ち破る御子

しかし、御子が来られました。この悪魔のしわざを打ち破るために来られました。3 章 8 節、「その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。」キリストが十字架で死なれることによって、その流された血によって、その死の力である罪を取り除かれました。罪が取り除かれた者に対して、悪魔はその人を支配することができなくなったのです。ちょうど、それはとげを抜かれたさそりのようなものです。どんなに私たちが指しても、それで私たちが死ぬことがないのです。

## 4A 私たちの信仰

### 1B 信仰による救い

そして、「**私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。**」とヨハネは言っています。神によって生まれて、それで世に勝ちました。けれども、その時に私たちは信仰を働かせています。御子を信じる信仰を働かせて、それで、神によって生まれたこと、つまり、神の種があるので、罪を犯さないでいることができる、ということです。

信仰というのは、単に信条に同意することだけではありません。結婚式の時に、男女は誓約を交わすことはできます。それはとても大切です。しかし、そのことを日々の生活に当てはめて、そこで誓ったことを働かせて、それでこそその夫婦生活です。同じように、イエス・キリストを信じ、その方の行われたことが自分のためであることを信じ、今も、生きておられ、これから戻ってこられることを信じて生きています。今、この時に、信じていかされます。

二人の盲人が、「ダビデの子よ。私たちがあわれんでください。」と叫んだら、イエス様が、「わたしにそれができると信じるのか」と尋ねられ、彼らは、「はい、主よ」と言いました。「マタ 9:29 そこでイエスは彼らの目にさわって、「あなたがたの信仰のとおりになれ。」と言われた。」そして、おことばを下さい、そうすればしもべは治る、と言った百人隊長に対して、「8:13 あなたの信じたとおりに

なるように。」と言いました。ツロとシドンの地方でイエス様が、女の娘が悪霊につかれている、あわれんでくださいと言われましたが、イエス様は、「15:28 女の方、あなたの信仰は立派です。あなたの願うとおりになるように。」と言われました。長血を患う女に対しては、「9:22 娘よ、しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」と言われました。

これらの人々に共通しているのは、「積極的に信仰を働かせている」ということです。神がおできになると信じるだけでなく、今、この時に神がおられて、神は行ってくださる、行われていると信じていることです。能動的、躍動的な信仰なのです。自分が自由になりたいと願っていることについて、もがいていること、犯している罪について、「いつか神が自由にしてほしい」ではなく、「神は自由にしてくださった」と信じられているか？であります。この今の自分の問題についても、神は自由を与えられたと信じているか？であります。

## 2B 御子なるイエス

そして、その信じていることの内容を、ヨハネは強調していますね。「<sup>5</sup> 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」

## 1C 国々の服従

私たちは、神の御子という言葉を知っている時に、それが、どれだけのインパクトを持っているかを、なかなか想像できません。要は王子です。王のものを全て受け継ぐ者であり、また、王の権限をすべて任されるものです。天地万物を造られた神の御子ですから、父なる神の権威と権力、すべてのものがあるのです。

御子がどのような存在かを、詩篇 2 篇の預言から見てみましょう。

7 「私は主の定めについて語ろう。

主は私に言われた。

『あなたはわたしの子。

わたしが今日 あなたを生んだ。

8 わたしに求めよ。

わたしは国々をあなたへのゆずりとして与える。

地の果ての果てまで あなたの所有として。

9 あなたは 鉄の杖で彼らを牧し

陶器師が器を砕くように粉々にする。』

10 それゆえ今 王たちよ 悟れ。

地をさばく者たちよ 慎め。

11 恐れつつ 主に仕えよ。

おののきつつ震え 子に口づけせよ。

12 主が怒り おまえたちが道で滅びないために。

御怒りが すぐにも燃えようとしているからだ。

幸いなことよ すべて主に身を避ける人は。

圧倒的な力と権威が与えられています。イエスが戻ってこられた時は、地の王たちはふるえおののき、口づけするのです。ひれ伏すのです。この方が御子であることを信じるとは、このことを言っています。いっさいの権威が与えられ、力ある神です。死者からの復活によって、そのことを公にされました。つまり、死をも打ち破る力を持っておられるのです。

## 2C 長子

そして、もう一つ大事なものは、この方が神の御子であり、そのことを信じている私たちは、養子として神の子どもになっているということです。「ロマ 8:29 神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。」父と子の関係の中に、入れてくださったのです。

それゆえ、神のうちにあって私たちは、悪い者から守られます。御父と御子にあって、守られるのです。御父に御子が願いました。「ヨハ 17:15-16 わたしがお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。わたしがこの世のものではないように、彼らもこの世のものではありません。」この方を御子であると信頼しているとは、このような御父と御子にある交わりで、悪い者から守られているということがあります。

ですから、私たちは世に打ち勝っています。神に生まれた者たちは、打ち勝っているのです。大患難の時、地上には聖徒たちがいます。教会はずでに引き上げられていますが、その後に信じた人たちがいます。悪魔が、御使いミカエルとの戦いで、天から墮ちました。その時に、大きな声が天でしました。「黙 12:11 兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに竜に打ち勝った。彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。」子羊の血と、証しによって、打ち勝つのです。

私たちは、何かに打ち勝つ時に、自分たちをいかに磨くか考えないでしょうか？ 私たちには、唯一の備えは、キリストの血が自分の心に注がれていることを覚えること。また人々の前でも、イエスを認めることです。